

教科名	対象学年	使用した資料（参考にした資料）	TYPE
国語	小学4年	授業アイデア集【小学校版】p5, 6	I・III

授業内容	故事成語について調べ、使ってみよう。
身に付けたい力	故事成語の意味を理解し、使うことができる。

教科名	対象学年	学校名	課題の見られた問題	TYPE
国語	4年	熊谷市立三尻小学校	26年度 全国 A2	I・III
授業の内容	故事成語について調べ、使ってみよう。			
身に付けたい力	故事成語の意味を理解し、使うことができる。			

事例1 故事成語の意味を理解する。（対象：4年）

第1次 故事成語について知り、学習計画を立てる。

故事成語は、中国の古い時代のできごとなどから生まれた言葉です。成り立ちや意味を調べてみましょう。身近な場面でのお話を作ってみましょう。グループごとに担当を決めて、みんなの作ったお話から、びつたりのものを選び紹介しましょう。

取り上げる
故事成語の例

- ・五十歩百歩
- ・蛇足
- ・漁夫の利
- ・螢雪の功
- ・杞憂
- ・虎の威を借る狐
- ・矛盾

など

まずはじめに、一人一人が故事成語の意味を調べて、お話を作るんだね。

カードの例

調べた内容は、故事成語ごとにカードにまとめておきましょう。

〇話は、身近な生活の中で起こったことや起こりそうなことを考えさせる。150字から200字程度という字数制限を設けると、ある程度くわしく書く必要が出てきて、場面の描写が具体的にになる。

五十歩百歩
成り立ち
戦場で逃げ出した兵士が五十歩逃げたか百歩逃げたかで言い争ったが、どちらも逃げたことに変わりないと王様に言われたことから。
意味
ちがいはあっても、にたりよったりで、たいして変わらない。
語
太郎、ようこ、ゆみこの三人は、三時に待ち合わせをしました。太郎は三分おくれました。ようこは十分もおくれました。太郎が「おそいよ。」と言うと、ゆみこに「太郎だって三分ちこくしたでしょう。」と言われてしまいました。

第2次 グループごとに、担当の故事成語について成り立ちと意味を確認し、書いた話の中からふさわしいものを選び、発表の準備をする。

みんなに書いてもらった話の中から、意味や使い方がびつたりものものを選びましょう。

〇「選ぶときの観点」を示しておく。

- ・故事成語の意味に合った話か。
- ・身近で分かりやすい話か。

グループごとの発表の構成例

- 1 故事成語の成り立ち
- 2 意味
- 3 選んだ話
- 4 この話を選んだ理由

第3次 故事成語発表会をする。

〇取り上げる故事成語の意味や成り立ちをもう一度グループの中で確認し、ふさわしい話を選ぶことができるように支援する。

私たちは、「五十歩百歩」という故事成語について発表します。まずはじめに、成り立ちと意味を紹介します。昔、戦場で……

次に、ぼくたちが選んだお話を紹介します。大野さんが書いた作品です。「太郎、ようこ、ゆみこの三人は……。」この話を選んだのは、三分、五分とちがいがあっても選れたことに変わりはないというのが、五十歩百歩の意味にびつたりで、しかも、実際にありそうな場面に分かりやすいと考えたからです。

〇成り立ちの話の大事な場面を表した絵などを資料として提示するとよい。

〇よい話がいくつかある場合には、一つにしばらく紹介する。

〇選んだお話をなぜ選んだのかも、「選ぶときの観点」をもとに説明する。

事例2 故事成語を使ってスピーチをする。（対象：4～6年）

自分の体験を、故事成語を使って話してみよう。

クラブ発表会でのことです。私の入っているダンスクラブは、ステージの上で演技をしました。本番前、転んでしまうのではとか、失敗したらどうしようとか心配でしかたありませんでした。でも、実際に本番が始まると、今まででいちばんよい演技ができました。私の心配は杞憂に終わりました。

〇実際には体験していないことを体験したように話してもよいことにしておく。気軽に、楽しみながら取り組める。

【授業のポイント】

〇事例1、事例2ともに、自分の生活や身近な出来事と故事成語を結びつけた話を考えることによって、故事成語の意味や使い方理解できるように指導する。

〇事例1のように、故事成語を重点的に扱った単元で指導した後、事例2のように、授業の最初に一人ずつスピーチしていくなど継続的に指導を行っていく必要がある。

〇自分で故事成語を使ってみるだけでなく、人がどのように故事成語を使っているのかを聞いたり読んだりすることも理解を深めることができるので、児童同士の交流を取り入れて指導する。

【授業のポイント】

〇事例1、事例2ともに、自分の生活や身近な出来事と故事成語を結びつけた話を考えることによって、故事成語の意味や使い方を理解できるように指導する。

【授業の様子】

- ・ 故事成語が児童の生活と結びつくよう、授業の初めに故事成語が生まれた国について理解させた。
- ・ 地球儀を活用し、中国について簡単に説明した。
- ・ 自分で話を考える場面では、身近な生活の中で起こったことや起こりそうなことを考えさせ、場面の描写を200字程度で書かせた。



【効果】

- ・ 中国という国についての確認をした際には、「中国って、こんなに大きいんだあ。」と児童が口に出すなどして、予想以上に児童の反応が良かった。
- ・ 話を考える取組は、気軽に楽しみながらできてとても良かった。

【留意点】

- ・ 児童に話をつくらせる際に、取り上げる故事成語の数は絞った方が良い。例えば、授業中に重点的に扱ったものだけにじっくり取り組ませるといった指導の方法も考えられる。

【授業のポイント】
○事例1のように、故事成語を重点的に扱った単元で指導した後、事例2のように、授業の最初に一人ずつスピーチをしていくなど継続的に指導を行っていく必要がある。

- 【授業の様子】**
- ・授業の最初の時間を使って、毎時間交代で「故事成語スピーチ」を行うという取り組みを始めた。
 - ・スピーチを聞いている児童は、「なるほど。」「そうやって使うのか!」と感心したり、故事成語の意味を予想したりしながら、楽しそうに発表を聞いていた。

- 【効果】**
- ・教科書で学習するだけで終わらずに、スピーチや日常の会話の中で継続的に使えるようになり、故事成語に興味をもつ児童が増えた。
 - ・故事成語が児童にとって身近なものになった。
 - ・毎日スピーチを行っていく中で、家庭学習で故事成語について調べてくる児童が増えた。

- 【留意点】**
- ・自信を持って発表できない児童に対しては、前日にスピーチの内容をノートに書かせるなどの配慮が必要である。

【授業のポイント】
○自分で故事成語を使ってみるだけでなく、人がどのように故事成語を使っているのかを聞いたり読んだりすることでも故事成語に対する理解を深めることができるので、児童同士の交流を取り入れて指導する。

- 【授業の様子】**
- ・教科書に載っている故事成語を扱い、自分たちでオリジナルの物語を作り、それを4枚の紙芝居にして故事成語発表会を行った。
 - ・「蛇足」を選んだグループは、「図工の時間に絵を描いていて、上手くできたからさらに付け足しをしたら失敗してしまった。」という物語をつくり、身近な生活で起こりそうなことを具体的に描写することができていた。

- 【効果】**
- ・発表時には、全児童の目がしっかりと提示した紙芝居に集まり、故事成語に対してさらに興味関心を高めていた様子であった。
 - ・この授業を機に、普段の生活の中で児童が故事成語を頻繁に使うようになり、学級に「故事成語ブーム」が起きた。



- 【留意点】**
- ・学んだことを共有・確認し、以後に繋げるという指導が大切である。